

第6回青果物流通標準化検討会

1. 日時：

令和6年3月8日(金)10:01~12:21

2. 場所：

農林水産省 共用第1会議室（一部、オンライン参加）

3. 出席者：

<出荷団体>

井村 竜也 全国農業協同組合連合会 園芸部 園芸物流対策課長
【代理】

湊 興令 ホクレン農業協同組合連合会 物流部長
二藤 努 日本園芸農業協同組合連合会 参事兼業務部長

<卸売団体>

庄内 弘志 一般社団法人全国中央市場青果卸売協会
(東京青果株式会社 取締役部長)

中村 岩生 一般社団法人全国中央市場青果卸売協会
(東京青果株式会社 経営戦略室 課長)

月田 求仁敬 一般社団法人全国青果卸売市場協会【WEB】
(熊本大同青果株式会社 代表取締役会長)

河添 洋平 一般社団法人全国青果卸売市場協会【WEB】
(熊本大同青果株式会社 常務取締役)

<物流事業者>

馬渡 雅敏 公益社団法人全日本トラック協会 副会長

<パレットサプライヤー>

新井 健文 日本パレットレンタル株式会社 執行役員

赤星 慎一郎 三甲株式会社 専務取締役

<開設者団体>

南波 伸也 東京都中央卸売市場 管理部市場政策課長【WEB】

<仲卸団体>

稲垣 憲一 全国青果卸売協同組合連合会 関東地区協議会 理事
【WEB】

井出 禎久 全国青果卸売協同組合連合会 専務理事

<情報システム関連事業者>

渡邊 敏康 公益財団法人食品等流通合理化促進機構 業務部 課長

折笠 俊輔 公益財団法人流通経済研究所 農業・物流・地域部門長
【WEB】

田代 英男 公益財団法人流通経済研究所 主任研究員【発表者】

<行政>

平澤 崇裕 国土交通省 物流・自動車局 物流政策課【WEB】

小熊 弘明 国土交通省 物流・自動車局 貨物流通事業課【WEB】

浦田 博史 経済産業省 商務・サービスグループ 物流企画室【WEB】

小林 大樹 農林水産省 新事業・食品産業部 部長

藏谷 恵大 農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部 食品流通課長

坂東 樹 農林水産省 農産局 園芸作物課 課長補佐

仙波 徹 農林水産省 農産局 果樹・茶グループ長

< 発表者 >

千曲運輸株式会社 中嶋代表取締役

4. 議事概要：

【小林部長冒頭挨拶】

- 物流問題に関しては、関係省庁で取組を進めているところ。
- 農林水産省でも昨年末に農林水産省物流対策本部を立ち上げた他、官民合同タスクフォースを立ち上げ、現場での取組を推進している。
- 本検討会では令和5年3月に青果物流通標準化ガイドラインを取りまとめ、目指す方向性は明確になったと思うが、現場で取り組むにあたり課題が出てきていることかと思う。この課題に対して個社で対応できるところはしっかりと進めていただき、全体で持ち寄って方向性を定めなくてはならない事柄については、本検討会のような場で整理していく必要があると考えている。本日は有意義な意見交換をさせていただきたい。

- ・農林水産省新事業・食品産業部食品流通課より、「物流革新に向けた政策パッケージ」に基づく政府の取組状況、産地・卸売市場における物流改善の取組について説明。
- ・JA全農、ホクレン、全中青協、全青協、全青卸連、全ト協より、各団体の自主行動計画の取組について説明。
- ・公益財団法人流通経済研究所より、各産地における11型パレット導入・外装サイズ変更に係る取組状況について説明。
- ・農林水産省新事業・食品産業部食品流通課より、青果物分野におけるパレット化率について説明。
- ・その後、意見交換を実施。

【各構成員からの主な意見】

以下、構成員からの主な発言。

- パレット化率の目標設定については賛成。フォローアップを行う際には、ドライバーの荷役作業や荷待ち時間がパレット化の推進によってどのように改善したのかといった項目を加えて欲しい。それを示すことで、パレット化の効果がわかり、好事例の水平展開につながると考える。一方で、パレット化率に傾注してしまうと、市場流通の関係者の負担が増えてしまうことを危惧しており、導入方法や時期については慎重に進めていただきたい。(全農 井村様)
- パレット化率の目標設定については賛成。パレット化率の向上には、関係者間のコスト負担のあり方、卸売市場内でのパレット管理・ルール整備が必要だと考える。北海道ではパレタイザーの導入、選果ラインなどの集出荷施設の改修が一番大きな課題かと思う。(ホクレン 湊様)
- パレット化率について、2030年度まで6年あることを考えると、80%という数字は緩やかな目標値だと感じる。また、サプライヤーから貸し出されているパレットが、どの品目に使用されているものかを確認すれば、品目毎により精度の高いパレット化率を算出できるかと思う。(日園連 二藤様)

- 農林水産省には、産地の選果場の更新あるいは新設、市場におけるクランプフォークリフト、パレットチェンジャー、パレットの保管場所や管理体制の整備に対しての補助金をお願いしたい。これらの環境が整わない限り、パレットの普及は進まないと思う。また、市場開設者には動線の整備を進めてもらうようお願いしたい。(日園連 二藤様)
- 果実分野では、2024年問題への取組に産地間での温度差が非常に大きい。まずは規格を問わずにパレットに載せてもらうことを第一に、最終的には11型パレットに切り替えるという方向で検討していくように取組を進めていきたいと思う。(日園連 二藤様)
- 出荷規格の簡素化をまずは温州みかんから進めていかないといけないと考えている。まずは系統団体が規格の簡素化の指標を示して、スムーズな積み込みや荷下ろし、転送ができる体制を作っていくといけない。それにより、しっかりしたパレットの循環システムが構築できるのではないかと考えている。(日園連 二藤様)
- 産地から一度東京の市場に出荷され、その後別の消費地に転送されるようなケースでは、パレットを途中の東京で積み替えずに最終消費地まで持って行き、そこで回収するような一貫パレチゼーションの取組も推進していかなければならないと考えている。(日園連 二藤様)
- 産地の課題としては、パレットのレンタル料の負担が非常に大きい。希望としては産地、運送会社、卸での三者折半だが、卸ではクランプフォークリフトの導入費用やパレットの保管管理料がかかっていることを考えると、レンタル料は産地にて負担するのが基本かと考えている。(日園連 二藤様)
- 運送会社には、パレット積みとベタ積みで運送費に価格差を付けてもらって、パレットをレンタルしやすい環境にしていけないと思っている。(日園連 二藤様)
- 市場の現状としては、パレットを返却するために、クランプフォークリフトや人力で市場の雑パレットへ積みかえており、人件費も発生している。市場では価格転嫁ができないということもあり、コスト負担はできない。産地には理解してもらっているが、今後のあり方を農林水産省としてどう考えているのかを聞きたい。荷物が減っている市場もある中で、現状のような対応はできなくなるところも出てくると思うので、運用についてのフォローアップを農林水産省、開設者にはお願いしたい。(全中青協 庄内様)
- パレット化率の見える化はやっていく必要があると思うが、標準化を常に意識して欲しい。受け手としては、パレットだけでなく、箱サイズも2種類くらいまでなら良いが、ばらばらは困る。現在各産地が実施している箱サイズ変更に向けた輸送試験を見ているが、まだ産地間で基準が合っていないように感じる。そこは主産県にまとめていただいて、話し合えるような体制にして欲しい。(全中青協 中村様)
- パレット化率は品目別の進捗具合やどの品目ならパレット導入の効果が出やすいのかを整理してもらって、特に重たいもので等階級もまとまっている品目は優先して進めていくべきだと思う。主産県の中でもどこは導入して、どこは検討中で、どこはまだ導入体制が取れていないというのを整理して、プッシュ型で進める方が標準化は進むと思う。(全中青協 中村様)
- システムについても、様々な産地で産地・市場間のデータの受け渡しプラットフォームが検討されているが、これが10や20もあると困る。また、行き詰まるポイントも同じであることが多いので、横の連携や標準化を図ってほしい。(全中青協 中村様)

- パレット化については、進めていかないといけないと思うが、コスト負担のあり方を考えないと障害が出てくるのではないかと思う。産地からは運賃上昇分を価格に転嫁してくれ、と言われているが、小売団体と話をすると需要と供給の問題であり、供給量が減らないと価格は上げられないと言われる。その中で、パレットレンタル費を誰が、どう負担していくのかを考えなくてはならない。(全青協 月田様)
- 農林水産省からの事前説明で、今後市場に入ってくる 11 型パレットは現在より大幅に増えていくと聞いたが、その時に市場での保管ができるのかを懸念している。地方市場でもかなりのスペースを取るが、大都市の市場で対応できるのか疑問。(全青協 月田様)
- 市場で荷下ろしした後、卸では分荷作業などがあるが、その作業は減らないどころか、パレット化が進むと増えてくることになるかと思う。人手が足りなくなっていく、時給も上がっていく中で、すべてがコストアップしていくが、それをどう吸収していくのかはそろそろ議論していかないといけない。(全青協 月田様)
- 皆さんが言う色々な条件を同時に進めていく必要がある。パレット化だけ進めて、コストの議論はしていないとまた行き詰まることになる。(全ト協 馬渡様)
- 産地、運送、卸のコスト負担だけでなく、その先の仲卸、小売、消費者のコスト負担も必要だということを進めていかないと、パレット化は進んでいかない話かと思う。(全ト協 馬渡様)
- 産地・卸間の契約書では、産地が荷下ろしをすることになっており、産地が手配した運送業者がそれを担っているが、運送業界のルールは車上渡し、車上下ろしで荷下ろしはしないことが原則となっている。そのため、運送業者で荷下ろしをするのであれば、パレットであろうとなかろうと料金が発生するという話をするとき市場のルールは違うということと言われても進んでいかない。ここも同時に議論していく必要がある。(全ト協 馬渡様)
- 運送業者から見ると、相対取引が増えてきたのであれば、商物分離して、モノは市場を経由せず最終地点に直接持っていけばいいように思う。無駄な物流は減らしていきたい。(全ト協 馬渡様)
- 市場からのパレットの回収率は高い水準を保っていただいているが、それは卸の積み替え作業により維持されているものだと認識している。積みかえ作業が発生している現状は持続的ではないので、流通の川下まで一貫してパレットで輸送されていく世界になるのだと思う。その時に現状と同じコスト負担のあり方でやっていけるのか、将来的に検討課題となるのではないかと思う。(JPR 新井様)
- コストの問題については、2024 年問題全体の話を通じて、最終消費者の利便性やコスト負担が変わらないことを前提としたアプローチになっているように感じる。政府広報で消費者の利便性や価格の変化を受け入れる空気感の醸成をしていって欲しい。(JPR 新井様)
- 現在、農業分野で雑パレット何枚流通しているのかは分かっていない。メーカーとしてどれだけの生産が必要か検討するためにも、この全てがレンタルパレットに換わる場合の必要数も K P I の中に加えていただきたい。(三甲 赤星様)
- 大田市場には 160 社ほどの仲卸がいるが、出入りしている業者はその他に他市場の仲卸や転送業者など 1,500 社以上いる。パレット管理には他市場や小売業者も巻き込んでいく必要がある。(全青卸連 稲垣様)
- 2024 年問題は市場から先にも大きなダメージを与える。現状市場か

らの出荷について、ドライバーはピッキング、小分け、積込み、シール貼りなど多くの付帯作業を強いられている。これらの付帯作業はサービスのようになっていくが、そのコストの数値化が必要だと考える。このコストは誰かが必ず負担しなければならず、最終的には売価に反映させていかないとはいけない。(全青卸連 稲垣様)

- 物流プラットフォームについては、この4、5年で多くの案件が持ち上がってきており、困った状況になっている。全ての卸売会社はベジフルネットと自社システムが対応しているため、ベジフルネットと連携したプラットフォームを作れば、各卸売会社にとってコスト増にならなくて済むのではないかと思う。(全青卸連 稲垣様)
- 令和4年度補正の補助事業では、事業期間中の内容はすごく良いと思うものがあるが、補助事業終了後に自分たちの負担でやるとなったときに立ち止まってしまうものが多い印象。令和5年度補正も措置されたので、残課題がある場合は活用いただきたい。(食流機構 渡邊様)
- 全国では再整備が必要な卸売市場も増えているので、再整備と合わせて農林水産省主体でパレット輸送などの、全国のモデルケースを作ると良いのではないかと思う。(食流機構 渡邊様)
- 進捗を確認するために、パレット化率を見える化し、定量的に評価することはよいが、パレット化率だけではなく、コストを含めて総合的に見ていく必要がある。例えば、今まで運送業者が無償で担っていた付帯作業に別料金が発生することになると、パレット化により導入費がかかったとしても付帯料金が抑えられ、結果コスト削減になる可能性もある。こうした周囲の環境もあわせてフォローしなければ、パレット化率が増減する背景が分析できないと思う。(流研 折笠様)
- 推進に当たっては、青果物のサプライチェーンに関わる全ての方にメリットがある形をつくる必要がある。そのためには、ドライバーが荷役するのが当たり前だとか、市場の約款と運送会社の約款で食い違っている荷役の責任の所在といった既存のあり方を変えていく必要。また、最終消費者への価格転嫁も含めて進めていかないとはいけない。(流研 折笠様)
- 現場では、パレット化に当たり、真空予冷をかけた際にプラスチックパレットだと結露してしまうから、雑パレットで対応したというケースもあり、改めてプラスチックパレットの推進を図る必要がある。(流研 折笠様)
- 産地、運送会社、市場、小売のいずれも、既存の運用を変えていく中でどうしてもコストは増える。消費者への価格転嫁の仕組みができればよいが、それを待たず、サプライチェーン全体で、協力できることを話し合って進めていくべきだと思う。コスト負担の話ではなく、持続的な物流に向けて、発・着、製・配・販でできることを話し合って進めていくことが必要。(全中青協 中村様)
- 今回、パレット化率を向上させていくという点は異論がなかったと思う。その上で、パレット化率だけを見るのではなく、それでどのような成果が出ているのかを併せて見ていく必要があるとの意見をいただいたことを受け、事務局で、今後、どのようなフォローアップを行っていくのかを検討し、次回の検討会でお示ししたい。(農林水産省 蔵谷課長)
- コスト負担、ルールづくりは大事な話なので、それぞれの立場でそれぞれの取り組みを進めていただくと同時に、検討を進めていきたい。(農林水産省 蔵谷課長)
- コスト負担の話がまとまらないから、歩みを止めるということではで

きないのでとにかくやるべきことは進めていく必要がある。価格転嫁に関しては、市場流通は価格転嫁ができないので、それぞれの関係者が吸収するしかないというのは持続的ではないと思う。最終的には消費者に負担していただくということを念頭に置いて進めていかないと、物流問題も含めていい方向に行かないのではないかな。これからしっかり考えていきたい。（農林水産省 小林部長）

以上